授業の内容に合わせて，観点を絞って観察や作品分析をしたことは，フィードバックに生かすうえで効果的だった。

学習のまとまりごとの評価の観点と評価結果

（「学習の記録」より）

授業の流れ	「明治の世の中」導入			調べ学習			歴史新聞			
観点 / 氏名	表情・つぶやき	発言の内容	吹きだしカードの記述	資料集活用の様子	グループでの発言内容	おたすけシートの記述	構成の工夫	正確・独自の内容	ていねいさ	感想
		◎			◎	△		◎		
	◎				◎			◎		
			◎							
	△					◎		◎		◎
		◎					◎			
			◎				◎		◎	◎
								◎		◎
		△				△		◎		

A…◎　B…空白　C…△

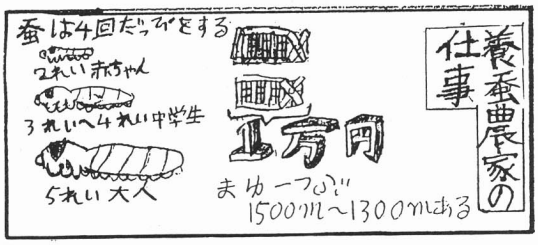
作品分析として，歴史新聞を「構成の工夫」「正確・独自の内容」「ていねいさ」「感想」の４つの視点から３段階で評価したのが，次の表である。

歴史新聞の分析の視点と評価結果

視点	規準と人数		
構成の工夫	A	（分かりやすい）	15 名
	B	（普通）	14 名
	C	（分かりにくい）	3 名
正確・独自の内容	A	（正確・独自の内容）	14 名
	B	（正確・普通の内容）	18 名
	C	（不正確）	0 名
ていねいさ	A	（ていねい）	6 名
	B	（普通）	21 名
	C	（ていねいでない）	5 名
感想	A	（自分との関連）	14 名
	B	（事実のみ）	18 名
	C	（記述なし）	0 名

このうち，「構成の工夫」と「感想」を見ると，「ふりかえりカード６」の自己評価と教師の評価はほぼ一致した。

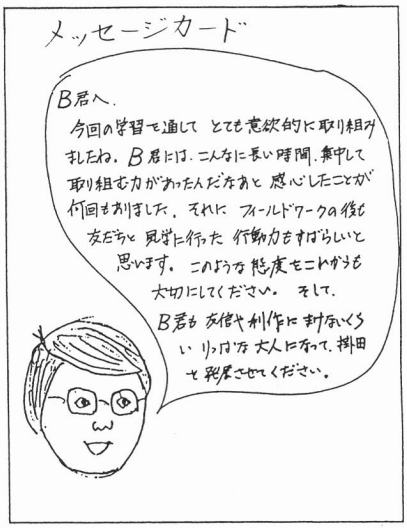
次の歴史新聞の一部はＡ男のものである。「構成の工夫」の視点で見ると，養蚕農家の仕事や生糸について絵で表す工夫が見られ，本人も「絵でうまくまとめることができた」と「ふりかえりカード６」で評価していたものである。



（Ａ男の歴史新聞の一部）

(イ)　「メッセージカード」にみる教師の評価

単元を通して教師の観察，発言・作品分析，「ふりかえりカード」などから総合的にとらえたその子の「よさ」を，「メッセージカード」と名付けた吹きだしカードに書いて，一人一人に渡した。「学習の記録」などから総合的に診断し，とらえることによって，教師は一人一人の児童の「よさ」を的確に伝えようと努めた。



（Ｂ男への「メッセージカード」）

上の「メッセージカード」はＢ男に対するものである。今まで落ち着いて学習することの少なかったＢ男が，調べ活動や歴史新聞づくりに集中して取り組んだ。教師はこの「よさ」をＢ男に「メッセージカード」で伝えたが，その時のＢ男のうれしそうな表情からも，この手だては効果があったと思われる。